

太平洋戦争を戦った日米の従軍経験者が六十年以上の時を超え、野球で対戦する「日米スーパーシニア親善野球」が十二月、ハワイ・ホノルルで開かれる。入団資格が七十五歳以上という米フロリダ州セントピーターズバーグの野球チーム「Kids & Kubs」が「新しい時をとにも過ぎそう」と対戦を申し込んだのがきっかけで、日本の特定非営利活動法人（NPO法人）が日本人選手を募集している。

対戦を希望した「Kids & Kubs」は七十五歳以上でないとい入団資格がなく、平均年齢は八十歳を超す一九三二年創

武器もういらぬ 野球で日米対戦



日本人と野球での交流を希望した「Kids & Kubs」のメンバー（米フロリダ州）

ハワイで12月 元米兵申し込む

設の老舗チーム。メンバーのうち十五人が親善試合の出場を望んでおり、「我々は日本人が憎かったわけではない。武器をグローブとバットに持ち替えて試合がしたい」「昔のことを忘れてローバルキャンパス（東京、大分、岐阜などから

京都渋谷区）の社長が、米国チームの思いをニューヨークの知人からの手紙で知り、大学教授などと「日米スーパーシニア親善野球」と名付けた運営委員会を設立した。

親善試合はホノルルで二試合十二月七日に初戦を行う予定。ソフトボールを使い、投手は下手から投球する。クロスプレーによるケガを避けるため、一塁、本塁はベース

十人がエントリーし、今月十日には東京都内で初のミーティングを開いた。ただ大会では投手、捕手以外に内野手五人、外野手四人とするルールがあるため、最低十一人が必要となる。大社理事

長は「選手の年齢を考えたも、対戦できるチャンスは限られている。日本側も十五人以上の編成にして、ぜひ対戦を実現したい」と話す。

委員会は今月いっぱい募集を続けるという。参加資格は対米戦の従軍経験があり、旅費など約十

万円が自己負担できることなど。問い合わせ先は運営委員会（☎03・5469・0681）。